

9月5日(金) 研究発表第2室(16号館106)

キーワード利用による英文の大意把握テスト法・大意把握練習の研究

Key Words and the Comprehension of Main Ideas

清水裕子 近畿大学

Yuko Shimizu Kinki University

木村真治 関西学院大学

Shinji Kimura Kwansei Gakuin University

小山由紀江 長岡技術大学

Yukie Koyama Nagaoka University of Technology

研究の動機

本研究の動機は、

1. 読解の主要な目的の1つである大意把握についての研究を進めることと、
2. 学習者の大意把握状況を正確に測定する方法として、また大意把握能力を育成する方法として、文章のkey wordを利用するテスト方法の妥当性と練習方法の有効性を検証することである。

大意把握をめぐる問題

文章の大意を把握することが、読みの主要な目的の1つであることに異論はないと思われるが、これまでの研究が、いまだ大意把握の効果的な指導方法を明示するに至っていないことを考えると、十分な研究がなされたと考えることはできない。学習者が文章の大意を把握できない場合、どのような指導方法が取られるのであろうか。未知語の意味を調べさせる以上の指導はなかったり、多量の文章を読ませたり、練習問題を多く与えておけば自然と大意把握能力が習得されると言うのでは、読解授業における教師の存在意味を自ら否定することにもなりかねない。筆者らは教授法が試行錯誤されている現状を顧み、本研究を含む実証的研究を積み重ねることにより、大意把握についての理解を深め、研究結果を外国語教育に還元したいと考えている。

大意把握をめぐるのは上記の他にも多くの問題が山積している。文章の大意把握は第2言語に限った問題ではなく、第1言語を対象に多くの先行研究があるが、大意把握の重要性が広く認識されているにもかかわらず、効果的な指導法が提唱されない原因には、そもそも「大意を把握した」とはどのような状態をさすのかさえも曖昧にされている背景がある。Cunnigham & Moore (1986)は、大意把握を助ける方法として文章のkey wordやtitleを書かせることを挙げているが、この方法が指導法として有効か否かは明確でなく、titleを書かせることは、むしろ大意把握の状態を知るテスト方法として利用されるのが一般的である。

大意把握のテストと授業活動

学習者が正確に文章の大意を把握しているか否かをテストする方法には、文章を要約させる等の方法があるが、信頼性と実用性に優れた多肢択一方式によって、文章のmain ideaやtitleを選ばせる方法が広く利用されている。しかしながら多肢択一方式に対する多くの批判に加え、titleには統一の正解答がないため、titleを選ばせる方法では錯乱肢の消去法によって最も適当なものを選ぶ他ないという欠点がある。他方、titleを書かせる方法は授業活動としては多肢択一方式よりも楽しく適当であろうが、descriptiveなものの以外にも読者の目を引くような面白いtitleをつけることも可能で、テスト方法としては正誤判断が困難である。

そこで、key wordを利用して学習者の大意把握状況を知る以下の3つの方法を考え、これらのテストとしての妥当性と、授業活動としての有効性を確認する研究を実施することにした。

1. 英文を読ませ、key wordを書かせる
2. 英文を読ませ、key wordを選ばせる
3. 英文を読ませ、key wordを使って要約を書かせる

key wordを利用した解答方法の利点には、選ばせる場合の錯乱肢の作成の容易さ、書かせる場合でも正誤判断が容易になることなどが予測された。英文の内容を正確に理解している者は、不正確に理解している者と比較して、当該英文の内容に深く関わる重要語を正しく書く（又は選ぶ）であろうと推測された。

研究の実施にあたり、まず、key wordの定義、key wordの要件、書かせるkey wordの数、選ばせるkey wordの数、選ばせる錯乱肢の数、要約の長さ等、筆者らの間で多くの取り決めを行なった。key wordの定義そのものが曖昧であり、筆者らは「文章の大意に深く関係している重要語句」と理解したが、必ずしも全ての研究者・教育者が同じ意味で使っているとは限らない。また、key wordとしての要件（例 前置詞は利用できない、語数）等も統一されているとは言えないため、筆者らの間で取り決める必要があった。次に、読ませる英文を選定し、これらの英文の理解度を測定する四肢択一内容理解問題を作成した。

本研究の被験者は日本人大学生約200名である。被験者の英語能力は統一試験を行なって前もって測定しておき、このテスト結果と各英文の内容理解問題の得点を基に、上下位群間で書くkey word、選ぶkey word等に異なりがあるかを調べた。また、英語を母語とする者、日本人英語教師からも同様のデータを収集し、学生の解答との比較を行なった。本研究発表では、これらの研究結果について報告を行ない、その妥当性と有効性について言及する。

参考文献

- Cunnigham J.W., and Moore, D.W. (1986). "The Confused World of Main Idea"
Baumann J.F. (ed). *Teaching Main Idea Comprehension*. International
Reading Association.

9月5日(金) 研究発表第2室(16号館106)

Key wordの定義

本研究で言うkey wordとは、与えられた英文の中で用いられていて、英文の内容を理解するために重要と思われる単語とする。名詞 (books, English)、動詞 (play, entered) や動名詞 (going)、形容詞 (pretty, quiet)、副詞 (happily, slowly) などがそれにあたり、ハイフンで結ばれた語 (anti-government, self-service) もひとつのkey wordとする。

Intsruments

I. key word choose/write/control用

英文	
(400 words)	-----
	Task 解答記入欄
	Comp.Qs 解答欄

II. summary writing用

英文	
(800 ~	
1000 words)	要約記述欄
	Comp.Qs 解答欄

8 問 (5 分)

Comprehenion Qs 4 肢選択
(タスク終了後 配布)

11 問 (5 分)

- ・ 4 肢択一の客観問題
- ・ title/main ideaを選ばせる問題を含む。

Task および Procedure について

	I	II
Passage Reading	11分間で、与えられた英文の内容を理解しながら読む。読みながら、文中に下線やマークなどをつけてもかまわない。また、右ページの余白にメモをとってもよい。	23分間で、与えられた英文の内容を理解しながら読む。
Tasks	key word choosing : 内容理解のために重要と思われるkey wordをKEY WORD TASKにあるリストの中から5つ選び出す。 key word writing : 同上。但し、key wordを、選択肢の中から選ぶのではなく、本文で使われている単語の中から自分で5つ選び出す。 Control : タスクなし。	summary writing : 英文を読みながら3文以内で要約文を書く。その際、key word含むように指示。
Compre. Qs	内容に関する4肢選択の問題を配布、解答。(8問、5分)	内容に関する4肢選択の問題を配布、解答。(11問、5分)

<key word choose taskの選択肢作成基準>

- (1) 各英文毎にWord Frequency Listを作成
- (2) 内容語を対象とし、人称代名詞、冠詞、不定代名詞、助動詞、関係詞、接続詞などの機能語は除外する。名詞の単数形・複数形はひとつのエントリーとする。また同一動詞の過去形・3人称単数現在形・動名詞形等もひとつのエントリーとする。
- (3) (2)の中から、以下のものをkey words およびそのdistractersの候補とし、合計15語をアルファベット順に並べて提示する。

key words (正答)

-Frequencyが高く(2回以上)、各英文の内容理解に重要と思われる語 5語

distracters

-Frequencyが高いが、key wordsとは言えない語 5語

-Frequencyが低く(1回)、key wordsとは言えない語 5語

例

KEYWORD TASK

左の英文の内容理解のために重要と思われるkey wordを、次のリストの中から5つ選び、その番号を○で囲みなさい。

- | | | | | |
|----------------|------------|------------|------------|---------------|
| 1. baby | 2. brain | 3. crying | 4. ears | 5. learn(ing) |
| 6. listen(ing) | 7. mother | 8. noise | 9. pulse | 10. rhythms |
| 11. select | 12. shrill | 13. sounds | 14. voices | 15. vowels |